

2016年3月31日付通期業績予想下方修正等に関する主なご質問

2016.4.1

Q:第3四半期決算から大幅な下方修正になりましたが、第4四半期中に事業環境が大きく変化したのですか？

A:修正内容の主要な部分は減損に伴う損失の追加です。1月末以降この年度末にかけて、減損判断材料である事業環境の見通しがより明確になり、中国等の建築用ガラス事業・ブラジル自動車用ガラス事業・ディスプレイ用ガラスにおいて、これまでの厳しい市場環境の見通し前提となったため、減損の可能性が高まりました。

Q:中国等における建築用ガラス事業の減損とは、撤退する型板ガラス事業とは別のものですか？

A:別の事業です。中国等建築用ガラス持分法適用会社のうち、赤字を計上している複数の持分法適用会社について、当社持分の出資部分の減損が見込まれます。該当する持分法適用会社の今期損益は計約30億円の赤字の見通しです。当該持分法適用会社については、来期以降持分法による投資損益に計上されなくなります。

Q:ブラジル自動車用ガラス事業は持分法適用会社ですか？

A:持分法適用会社ではありません。連結事業で、ブラジルにおける自動車用ガラス事業に係る暖簾部分が全額減損の見込みです。

Q:不採算事業の撤退や減損処理によって、来期見込んでいる約60億円の利益改善効果について、具体的にはどこで発現するのですか？

A:約60億円のうち、中国型板ガラス事業閉鎖とベトナムでの薄板ガラス生産用フロートライン休止による改善で、約30億円は営業利益改善に寄与します。残り約30億円は、持分法による投資利益での改善に反映されます。

Q:自己資本比率はどうなりますか？

A:2016年3月期末は10%台前半になると想定しております。

Q:ディスプレイ事業ビジネスに対する見方について。ベトナムでの薄板ガラス用フロートライン休止や減損が見込まれるということは、ディスプレイ事業ビジネスに将来性がなくなったということですか？

A:そうではありません。薄板ガラス市場の需要は成長していますが、昨年からの世界的な供給量増加による需給バランスの悪化に対応するため、ベトナムの設備を休止いたしました。ベトナムで製造している製品は従来の汎用品が中心となっています。日本での生産には新組成ガラス glanova を含んでいます。従来型の薄板ガラス市況は低迷しており、市況が戻るには時間がかかると想定しています。その間、ベトナム拠点の採算改善のため、今回の処置を決定いたしました。

一方、付加価値の高い新製品の glanova については、顧客の評価も進んでいます。今後ディスプレイ分野以外にも、自動車用や産業用途での採用を目指しています。従来型から高付加価値へビジネスモデルを転換していきます。

Q:大幅な赤字計上で、流動性に問題はないのですか？

A:今回の修正内容の主要な部分は減損等に伴う一過性の損失で、これら損失によるキャッシュフローへの影響は軽微です。また主要銀行からは引き続きご支援いただけるとの表明をいただいています。

以上

当資料中には、将来の当社の業績・当社を取り巻く環境に対する予想の部分があります。これは当社が現時点で入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提にもとづいており、実際の業績・環境は見通しと異なる可能性があります。